

お客さま満足



お客さま満足への取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/customer/>



お客さまのために

CCBJHグループは、飲料を通じてお客さま、お得意さまおよび地域社会を含むすべてのステークホルダーのみなさまに「ハッピーな瞬間とさわやかさ」を常に提供し、信頼され、誰からも愛される企業を目指しています。「私たちは、いつも顧客起点で考え、行動し、お客さま、お得意さまのベストパートナーとして期待に応えられる企業としてあり続けます」を顧客満足ポリシーに掲げており、このポリシーに基づきカスタマーコンタクトセンターを中心にお客さまの期待に応えるための仕組みづくりを進めています。

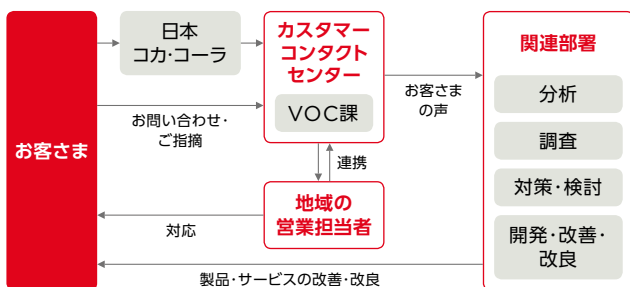
お客さま満足実現のために

カスタマーコンタクトセンターはCCBJHグループすべてのお客さまの窓口です。カスタマーコンタクトセンター内にあるVOC課(Voice Of Customer=お客さまの声)を軸に、寄せられたご意見やご要望、ご指摘などの情報を社内に共有し、より良い製品・サービスの改善に向けた取り組みを実施しています。

当社のお客さま対応プロセスおよびマネジメントシステムはご指摘対応の国際規格ISO10002(JISQ10002)*に適合しています。

*ISO10002(JISQ10002)とは、お客さま満足の向上のために、製品・サービス品質やご指摘(苦情)対応プロセスの継続的な改善を図ることを目的とした国際規格。「ISO10002(JISQ10002)」には、第三者機関が認証を行う審査登録制度がないため、企業はこの規格への適合を自ら確認し自己適合宣言を行うことができますが、コカ・コーラシステムでは第三者による適合性評価(第三者意見書)を受けた上で自己適合宣言を行っています。

お客さま対応フロー

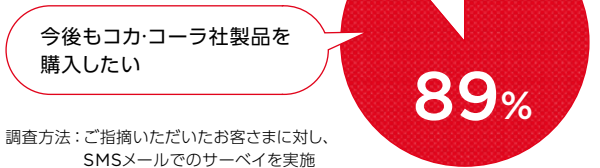


カスタマーコンタクトセンター内VOC課

お客さま満足度

ご指摘を頂戴したお客さまにアンケートを実施し、お客さま対応の評価およびコカ・コーラ社製品の再購入意向調査を行っています。VOC課では、地域担当者のお客さま対応のフォローを実施し、お客さまの期待に応えるための体制を構築しており、ご指摘を頂戴した多くのお客さまから、これまで通りもしくはこれまで以上にコカ・コーラ社製品を購入したいとの回答をいただいています。

2019年度 コカ・コーラ社製品再購入意向



カスタマーコンタクトセンターの取り組み

お客さまに満足していただくために、電話をお受けするコミュニケーターは、正確にお客さまに寄り添った対応を心がけています。

カスタマーコンタクトセンターでは、「対応品質」を高めるために、新たに外部機関の対応品質評価を取り入れ、コミュニケーター一人ひとりの能力向上に取り組んでいます。



お客さまからの
お問い合わせ応答率

94.3%

品質保証



品質保証への取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/assurance/>



品質方針

私たちはお客さまに、安全・安心・フレッシュでさわやかな製品・サービスを提供するために品質を最優先事項として捉え、すべての業務プロセスで品質の確保および向上に取り組んでいます。

品質に関わる基本的な考え方のもと、国内の基準を遵守するとともに、コカ・コーラシステムは、世界共通の「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムによるオペレーション管理を行っています。

「KORE」は原材料の調達から製造、物流、販売を経てお客さまに製品が届くまでの各過程において「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOをはじめ、各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課す内容となっています*。

*「品質」に関してはISO9001に、「食品安全」はFSSC22000に、「環境」はISO14001に、「労働安全衛生」はOHSAS18001に準拠しており（一部、ISO45001に規格移行中）、すべての工場で認証を取得しています。また、ISO14001は、セールスセンター、オフィスなどでも認証を取得しています。

品質に関わる基本的な考え方

- 1 各部門がそれぞれの役割と責任を認識して、お客さま起点の品質管理を実践します。
- 2 「品質」を最優先事項として日常業務を遂行します。
- 3 一人ひとりが常に「品質」を意識し考えて、ブランド価値を高めるために行動します。

品質意識醸成のために

私たちはお客さまに、安全・安心な食品をお届けするために、社員の品質に対する意識の醸成を推進しています。

● CCBJI_QA Monthly Report

部門長宛てに毎月レポートを発信しています。部門長を通じて製品の品質に関して起きている事象や、どのような改善が進められているのかを周知しています。

● 60秒のQA講座

社員の品質マインドの向上を目指し、イントラネットを活用した製品の品質に関わる“ミニ講座”を定期的実施しています。



● 品質サーベイ・品質インスペクション

品質保証を統括する部門が、製造、物流、営業現場へ足を運んで品質管理状況を確認し、潜在するリスクの把握を行った上で、改善に向けたコミュニケーションを通じリスクの予防を推進しています。

● ご指摘対応動画(Tips動画)

営業部門と連携し、営業担当者をご指摘品の対応を通じ、お客さまや得意先からさらなる信頼を得られるよう、ご指摘対応のコミュニケーションツール「ご指摘対応動画(Tips動画)」を提供しています。

品質管理システム「KORE」

日本コカ・コーラ

調達

GFSI(Global Food Safety Initiative)が認証した会社のみから原料を購入しています。

原液製造

最新の分析機器による厳格な原液の品質チェック(理化学検査、微生物検査など)を行っています。

製造

確かな品質をお届けするために品質管理システムの遵守と品質管理技術の向上に努め、製品の安全性確保を図っています。

物流・輸送

工場で製造された製品を高品質のままお届けできるように丁寧な扱いを徹底しています。

販売

(店舗・自動販売機)

お客さまに常に安全・安心・フレッシュな製品を提供できるよう店舗や自動販売機における品質管理に努めています。

お客さま

お客さまからのご意見・お問い合わせを改善活動につなげています。

倫理・コンプライアンス



倫理・コンプライアンスへの取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/compliance/>



倫理・コンプライアンス方針

CCBJHグループでは、企業の社会的責任を果たし、社会とともに持続的に発展する企業であり続けるために、社員一人ひとりが正しい行動を行う上での指針となる「倫理・行動規範」を制定し、倫理・コンプライアンスを重視する社風の促進を図っています。また、私たちは、ミッション・ビジョン・バリューにおいて、誠実と信頼に基づいた気高い志 (Integrity) で行動することに、価値を置いています。

「倫理・行動規範」は正しい行動、人権の尊重、ステークホルダーとの関係、利益相反の4つの柱で構成され、法令や規範に加えて社内の規則や職場の規律に従い、誠実さをもって正しく正直に行動すること、行動をとる前によく考えること、判断に迷ったり懸念があるときは指導を仰ぐことを社員に求めています。

コンプライアンス教育

社員の倫理観とコンプライアンス意識の一層の醸成、浸透を図るため、定期的に全社員に向けて「倫理・コンプライアンス通信」を発信しているほか、管理者や新入社員等を対象とした階層別の研修や、全社員対象のe-ラーニングなど啓発・教育活動を継続的に実施しています。



倫理・コンプライアンス研修

倫理・コンプライアンス相談窓口

法令や倫理・行動規範などに抵触する、または抵触する懸念がある行為について、専用メールや電話により社員より直接相談を受け付ける「倫理・コンプライアンス相談窓口」を設置しています。相談は匿名でも行うことができ、相談窓口の連絡先は、倫理・コンプライアンス通信やイントラネットへの掲載、各拠点内でのポスター掲示など、さまざまな手段で周知し、相談しやすい環境づくりに取り組んでいます。受け付けた相談案件は、事実を確認し不適切な行為が確認された場合は、適正に対処するとともに是正措置を行います。また、相談案件の対処にあたっては、相談者の保護に努めており、相談したことを理由として相談者に不利な取り扱いを行うことを禁止しています。

倫理・行動規範を守りましょう

私たちCCBJHグループは、ミッション、ビジョン、バリューにおいて、
Integrity：誠実と信頼に基づいた気高い志で行動することに、価値を置いています。

すべての社員に求められること

- ◆ 法令と倫理・行動規範、また、社内の規則や職場の規律を守りましょう。
- ◆ 疑念を持って判断し、不正と思われるような行動は回避しましょう。
- ◆ 私生活でも会社の名誉や利益を損なうような行為は避けてみましょう。

行動のセルフチェック 迷ったら、行動する前に自分に問いかけてみましょう。
あなたがしようとしていることか...

法令に沿っていますか？
YES?

企業理念や倫理・行動規範に沿っていますか？

お客さまや社会の人々から支持されますか？
本当に?

相手の立場に立った行動ですか？

自分と会社の名に恥じない行為ですか？

ひとつでも「いいえ」の答えがある場合には、その行動をとらないでください。

倫理・コンプライアンスポスター

Check!

行動規範・倫理上の違反事例	➡ なし
過去4年間における環境・エコロジーに関連する重要な罰金や違約金の支払い	➡ なし
政治献金等 政治活動、政治団体、ロビイスト、ロビー団体、事業者団体やその他の免税団体に対する寄付金や支出	➡ なし

WEB コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスグループ 倫理・行動規範
https://www.ccbji.co.jp/vision/pdf/ja/CCBJHgroup_Ethics_jp.pdf

WEB サプライヤー基本ポリシー
https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/pdf/supplier_ja.pdf



リスク マネジメント



リスクマネジメントへの取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/risk/>



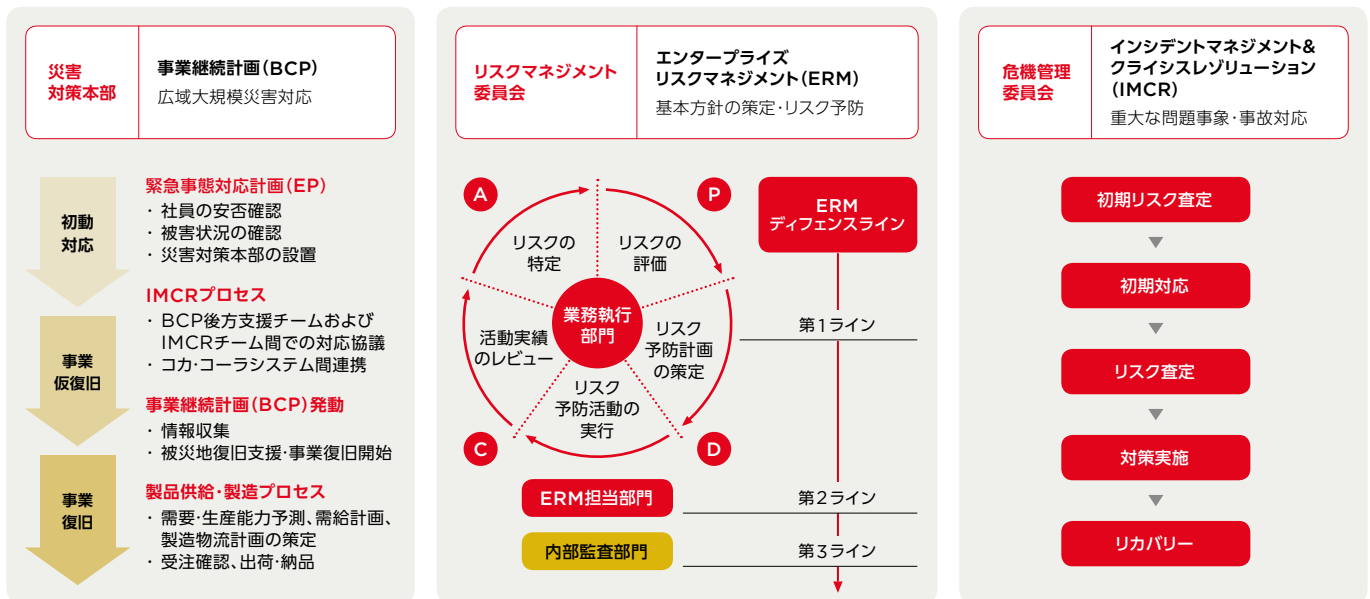
リスクマネジメント体制

CCBJHグループでは、①基本方針の策定およびリスク予防活動を審議・意思決定する「リスクマネジメント委員会」、②重大な問題事象・事故が発生した場合に意思決定・指揮を行う「危機管理委員会」、③事業活動に重大な影響を及ぼす広域大規模災害が発生した場合に事業継続計画(BCP)発動の審議・意思決定を行う「災害対策本部」を設けています。

CCBJHグループ各社および各業務執行部門では、PDCAサイクルを回しリスク予防活動を実践しています。リスクの主管部門による自律的なコントロールを第一のディフェンスライン、各委員会の事務局を務めるERM担当部門のリスクモニタリングを第二のディフェンスライン、内部監査部門による保証を第三のディフェンスラインとしています。

問題事象・事故が発生した場合、コカ・コーラシステム独自の危機管理プロセスである「IMCR」を通じ、情報収集と初期対応・解決策を協議し、必要に応じて代表取締役社長に危機管理委員会の招集を上申します。

リスクマネジメント体制図



2019年の取り組み 常に新しいことを取り入れ、緊急時により円滑な対応を!

2019年は「事業継続計画(BCP)」を改訂し、10月には社長を本部長とする災害対策本部と各地域の現地対策本部とを結ぶ模擬訓練を実施し、BCPの実効性の確認を行いました。訓練ではWEB会議システムを使用(同時通訳対応)。新たなツールを活用し、参加者は操作方法を学びながら、音声だけでなく映像や資料を共有し、新しいBCPに基づく対応プロセスを確認しました。直後に台風19号が襲来した際には、訓練の成果を活かし、円滑な情報交換、コミュニケーションをとることができました。また、併せて全社員を対象とした安否確認訓練を行い、有事における安全確保に対する意識向上を図っています。



模擬訓練の様子

人権尊重と 社員の働きがい



人権尊重と社員の働きがいへの取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/humanrights/>



人事制度

私たちは、グループのミッション・ビジョン・バリューである「Paint it RED! 未来を塗りかえろ。」に沿った戦略目標の達成に貢献した社員を正しく評価し、適切な報酬で報います。

当社が市場で選ばれ続けることを目指して、より優秀で多様な人材をひきつけ、個人の成長を促していきます。

主な制度例

- 業績のみでなくバリュー（行動）も重視した評価と人材育成
- ハイフォーマーに報いる業績連動型賞与
- 役割・責任に応じた労働市場において競争力のある報酬水準
- 社員がやりがいを持って安心して働き続けるための福利厚生制度

働き方改革

CCBJIグループでは、生産性向上を図るべく、全社的に業務標準化と最適化を推進するとともにITの導入やデジタル化を積極的に推進し、働き方改革の基盤を強化しています。

なお、長時間労働やサービス残業撲滅の対策として、（出社時間＝就業時間とする）クロックインシステムを全社展開し、労働時間の考え方を大きく変え、適正な労働時間の徹底に努めています。

さらに柔軟な働き方を実現するため、「直行直帰」や「在宅勤務」「サテライトオフィス勤務」を推進するほか、「勤務間インターバル制度」「時差勤務制度」「フレックスタイム制度」「計画年休制度」「ボランティア休暇制度」などを導入することで、より働きやすい環境を整備し、推進を図っています。

また疾病による治療と仕事の両立支援策として、時短勤務や時差勤務を推進するとともに、通院のための休暇や3カ月の私傷病有給休暇と最長30カ月の私傷病無給休職（基準内賃金の80%支給）が取得できます。

具体的な取り組み

- 連続テレワーク週間の実施
- テレワークデイズや時差Bizへの参加
- 有給休暇取得促進日の設定
- 全社員へのスマホ配布等、ITツールの導入（スマホアプリでの出退社打刻・残業申請等）
- 営業活動改善や業務効率化を目的としたRPAの導入



ITツールを活用した在宅勤務



ITツールを活用した勤怠管理

健康管理

CCBJHグループで働く社員の「健康保持・増進」は、重要な経営課題のひとつと考え、100歳でも元気な体でいられることを目指し（Road to 100）、健康第一の企業風土を醸成していきます。

社員が自ら進んで生活習慣の改善などの健康づくりに取り組むことができるよう、会社は社内健康増進室を設置、当社

健康保険組合と協働し、社員の健康診断やストレスチェックの結果データを分析、科学的な根拠のもと、当社独自の健康リスクの管理体制を構築しており、健康事業を通して、一人ひとりの健康づくりを支援しています。

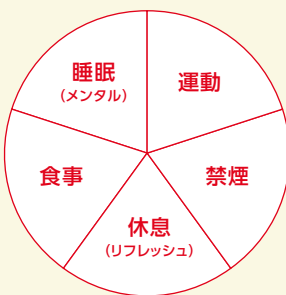
コカ・コーラ ボトラーズジャパン健康宣言

『Sawayaka Style』

～“Road to 100” 100才でも元気な体を目指して～

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、みなさまの日々の暮らしに寄り添う企業として、常に健康を第一に考え、幅広い世代のニーズと嗜好に合った価値ある商品・サービスを提供します。そのためには、社員自らが活動的かつ健康的なライフスタイルを送り、安心して・楽しく働くことが大前提であると考えます。社員一人ひとりが自律的な健康保持・増進活動を行うことを責務として認識し、会社と健康保険組合が一体となって健康保持・増進に向けたあらゆる取り組みを進め、「健康第一」の企業風土醸成をはかります。

『Sawayaka チャレンジ!!』の実施



Let's Sawayaka チャレンジ!!

健康経営の社内浸透や自社ならではの施策実施強化を目指し、「Sawayaka チャレンジ!!」と題したプログラムを実施しています。

具体的な取り組み

- 「Sawayaka ウォーク2019」(ウォーキングイベント)の実施
- コカ・コーラレッドスパークスラグビー部によるオリジナルの「Sawayakaストレッチ」の社内SNS配信や各拠点で体操の実施
- 禁煙プログラムの導入

労働安全・車両安全への取り組み

「安全と健康はすべてに優先する」という考えのもと、CCBJIグループで働くすべての人の安全と健康を守るとともに、いきいきとした職場を形成することや生産性を向上させること、また、企業としての社会的責任を果たすことが事業継続の根幹と位置づけ、相互信頼と実践に基づく安全文化の創造と醸成に取り組みます。

「不安全行動の排除」「不安全状態の除去」をキーワードに、職場全体での安全意識の向上や社員一人ひとりの安全行動・安全運転の定着への取り組みを行い、各職場での災害ゼロ・事故ゼロを推進します。

具体的な取り組み

- ドライブレコーダー個人認証
- 新卒社員安全運転研修



- 危険予知訓練(KYT)の実施
- 事故再発防止研修



Check!



休業を伴う災害発生率(LTIR) → 0.27

コーポレート・ガバナンス



コーポレート・ガバナンス

<https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/>



コーポレート・ガバナンス報告書

https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/pdf/report_jp.pdf



コーポレート・ガバナンスに関する

基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営の健全性、透明性および効率性を向上させ、中長期的な企業価値向上と株主価値の増大に努めることです。





当社は、ガバナンス体制の一層の強化を目指し、監査等委員会設置会社を採用しています。当社の監査を担う監査等委員会には、複数の独立社外取締役を含む社外取締役（監査等委員）のみで構成されており、この社外取締役である監査等委員が、取締役会において議決権を有していること、ならびに株主総会における取締役の指名・報酬等についての意見を陳述する権利を有していることなどにより、経営監督機能がより強化されています。

また、当社は、意思決定および経営監督機能と業務執行機能を分離すべく、執行役員制度を採用しているほか、重要な業務

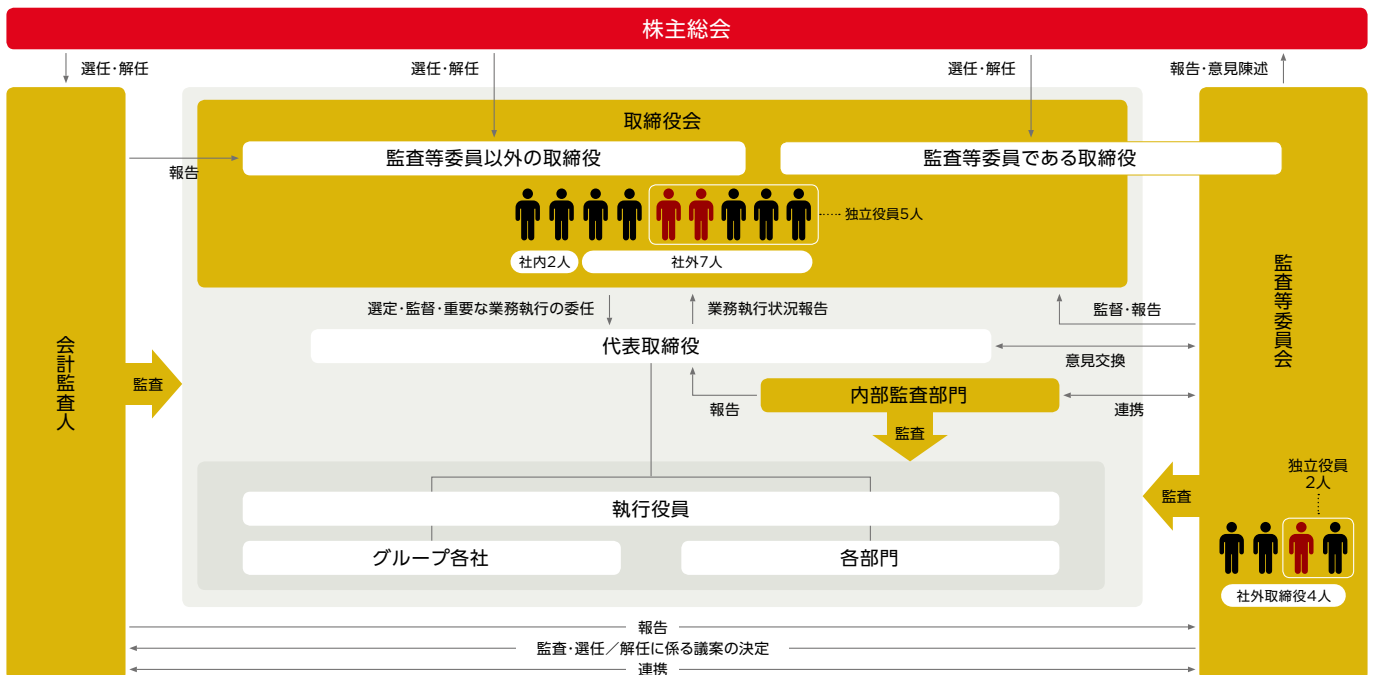
執行の決定の一部を取締役に委任することにより、取締役会において特に重要度の高い事項についての審議をより充実させるとともに、それ以外の事項について、経営陣による経営判断の迅速化も図っています。

コーポレート・ガバナンス体制

♂ 男性取締役 ♀ 女性取締役

機関形態	監査等委員会設置会社
社外取締役	 7 / 9人
業務執行取締役	 2 / 9人
独立役員	 5 / 9人
監査等委員会の社外取締役	 4 / 4人

コーポレート・ガバナンス体制図(2020年3月26日現在)





カリン・ドラガン

代表取締役社長

日本におけるコカ・コーラボトラーの代表取締役社長、また、海外数カ国のコカ・コーラボトラーにおける豊富な経営経験とコカ・コーラ事業におけるグローバルな知見を有しています。



ビヨン・イヴァル・ウルゲネス

代表取締役副社長
兼 最高財務責任者(財務本部長)

ザ コカ・コーラ カンパニーにおける豊富な経営経験とコカ・コーラ事業におけるグローバルな知見を有しています。



吉岡 浩

社外取締役、独立役員

日本におけるコカ・コーラボトラーの社外取締役やソニー株式会社において培われた豊富な経営経験とグローバルな知見を有しています。



和田 浩子

社外取締役、独立役員

米プロクター・アンド・ギャンブル社の役員、およびダイソン株式会社や日本トイザラス株式会社の代表取締役として培われた豊富な経営経験とグローバルな知見を有しています。



谷村 広和

社外取締役、独立役員

みちのくコカ・コーラボトリング株式会社の代表取締役であり、同社における経営陣としての豊富な経営経験と知見を有しています。



イリアル・フィンナン

社外取締役(監査等委員)

日本におけるコカ・コーラボトラーの社外取締役やザ コカ・コーラ カンパニーの経営ならびに全世界のコカ・コーラボトラーを統括するボトリング投資グループの代表として、長年コカ・コーラビジネスに携わってきた会社経営陣としての豊富な経験やグローバルな知見を有しています。



行徳 セルン

社外取締役(監査等委員)、独立役員

日産自動車株式会社において培われた豊富な経営経験やグローバルな知見と、同社監査役としての監査経験を有しています。



濱田 奈巳

社外取締役(監査等委員)、独立役員

自身でファイナンスに関するコンサルティング会社を経営するなど財務および経理に関する豊富な経験を有し、かつ、リーマン・ブラザーズ証券会社の日本法人の会社経営陣として培われた豊富な経験やグローバルな知見を有しています。



エンリケ・ラペッティ

社外取締役(監査等委員)

ザ コカ・コーラ カンパニーのラテンアメリカグループのCFOとして、同社における経営陣としての豊富な経営経験を有し、かつ、財務および会計に関する豊富な知見を有しています。

CCBJHグループの概要

会社概要 (2019年12月31日現在)

名称	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc.
設立	1960年(昭和35年)12月20日 ※2018年1月1日 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社に商号変更
決算期	12月31日
資本金	15,232百万円
代表者	代表取締役社長 カリン・ドラガン
上場取引所	株式会社東京証券取引所(市場第一部)

※2019年12月31日時点では証券会員制法人福岡証券取引所に上場しておりましたが、同取引所には上場廃止を申請しており、所定の手続きを経て、上場廃止となる予定です。

グループ体制図



外部評価



Dow Jones Sustainability Indices (DJSI)



CDP



準なでしこ銘柄



えるぼし



くるみん



健康経営優良法人
ホワイト500



新・ダイバーシティ
経営企業100選



日経スマートワーク
経営調査 4星



スポーツエール
カンパニー



work with
Pride



ISO-
国際標準化機構



食品安全
マネジメントシステム
FSSC 22000

このほか、2019年度「東京都障害者雇用エクセレントカンパニー賞」産業労働局長賞を受賞。

※当社やグループ会社が取得したものです。

私たちは、適時・適切な情報開示を行うことにより、あらゆるステークホルダーのみなさまから正しく理解され、信頼される企業になることを目指しています。持続的成長を実現するためのESG領域（環境・社会・ガバナンス）における戦略や活動などの非財務情報を「CSVレポート」でお伝えし、私たちの推進する戦略や実績を含む財務情報を「アニュアルレビュー」および「株主のみなさまへ」で開示することで、統合的にみなさまにご報告するように努めています。また、コーポレートサイトでは、より詳細、かつ広範な情報を公開しています。


財務・非財務統合サイト
<https://www.ccbj-holdings.com/corporate/download/>




工場見学のご案内

コカ・コーラ社製品を多くのみなさまに親しんでいただくため、工場見学を実施しています。「コカ・コーラ」誕生のエピソードや歴史、品質管理や環境への取り組みをご紹介しますとともに、迫力ある製造ラインを見学いただけます。みなさまのご来場をお待ちしています。



ご予約の際は事前にウェブサイトをご確認ください。

<https://www.ccbji.co.jp/plant/>



蔵王工場

宮城県刈田郡蔵王町宮字南川添1-1



電話：0224-32-3505

開催日：月曜日～金曜日、一部土曜日、祝日
(臨時休業日あり)

東海工場

愛知県東海市南柴田町
トの割266-18



電話：052-602-0413

開催日：月曜日～金曜日、一部土曜日、祝日
(臨時休業日あり)

多摩工場

東京都東久留米市野火止1-2-9



電話：042-471-0463

開催日：月曜日～金曜日、一部土曜日、祝日
(臨時休業日あり)

京都工場

京都府久世郡久御山町
田井新荒見128



電話：0774-43-5522

開催日：火曜日～日曜日、月曜日が祝日の場合は開催
(臨時休業日あり)

えびの工場

宮崎県えびの市
大字東川北字有留1321-1



電話：0984-25-4211

開催日：火曜日～日曜日、月曜日が祝日の場合は開催
(臨時休業日あり)



青木 雅生氏

三重大学人文学部 教授

経営学、経営史、研究開発マネジメント論などを専門とし、企業が社会に果たす役割をふまえ、“良い経営”とは何かに関わって、“企業の主体性”を問いつつ、企業を通じて社会がよりよくなることを研究している。2002年立命館大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。博士(経営学)。

CCBJHグループとして共創価値(CSV)に真摯に向き合い努力を積み重ねてこられたことに敬意を表します。

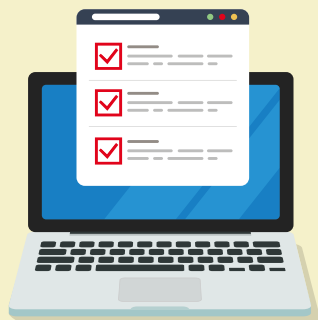
本レポートは、CCBJHグループが社会とともに価値を共創していく筋道(価値共創ストーリー)、具体的な取り組み(価値共創への挑戦)、そしてその根拠(価値共創を支える基盤)を明確に示し、着実に実践されるであろう確信的なものを感じさせます。

多くの企業は、企業の社会的責任(CSR)やSDGsへの積極的な関与が求められる中、対象となる社会課題や取り組む理由などについて、ともすると「社会貢献」というコストとみなし、自社の発展との関係性が十分見いだせないことがあります。これは企業の「収益性」と「社会性」の両立がまだ二律背反なのではないか、という考えから逃れられないからかもしれません。

そうした中において、CCBJHグループは「多様性の尊重」「地域社会」「資源」という3つのプラットフォームと9つの重点課題を特定するにあたり、「マテリアリティ特定プロセス」という過程を経たこと、CO₂排出実績の算定プロセスとその独立した第三者保証を行うなど、事業との関連付けと実績と客観性を可視化しておられ、その意義はとても大きいと言えます。

非財務目標「CSV Goals」を達成していくことが財務目標「中期計画」の達成に(たとえ部分的にでも)関連があることがより明示されれば、このレポートが“統合報告書”としての性格を強めるでしょう。

よりよい未来のための新たな価値創造はこれまでの延長線上にはない飽くなき挑戦にあるという力強いスタンスのもと、今後も実践されることを期待しております。



CSVレポート2020 アンケート

今後のCCBJHグループの取り組みや、CSVレポートの制作の参考にさせていただくため、アンケートを実施しています。みなさまのご感想やご意見などをお聞かせください。



下記のURLまたはQRコードよりアクセスしてください。

<https://form.ccbji.co.jp/form/csv2020>





コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

〒107-6211

東京都港区赤坂九丁目7番1号ミッドタウン・タワー

お問い合わせ

ウェブサイトの「お問い合わせ」フォームをご利用ください。

<https://www.ccbj-holdings.com/inquiry/>

